# 旧佐川邸の公園化を考える会 ワークショップ（第１回）議事録

令和3年9月19日13時00分～15時30分＠上水南公民館

出席者：21名（敬称略）

ランドスケープデザイナー　S 綾

小平市議：橋本（久）、水口、山浦、安竹（氏名順）

記・安竹

当日配布資料：ワークショップスケジュール案、計画案、現況平面図、

アンケート結果のご報告

水と緑と公園課の佐藤課長も、傍聴でお越しくださいました

## **検討会開始**

### **開催挨拶（事務局）**

### **事務局紹介**

### **録音と議事録作成について説明**

### **ワークショップ全体の流れ説明**

## **本日の説明**

### **経緯等説明**

**（N氏から）**

1994年、「透明な力」を読み、門人は取っていないが手紙を書いてほしいということから入門。南西の通路から入っていくが、ここが道場とは分からない状況。奥に入ってやっと道場の看板がある。佐川先生は名を広めることを求めず、修行を追及された方。それゆえ、合気道のように全世界に広まった状況ではない。知られざる道場であった。ご子息の敬行さんは小児麻痺で身体が動かず寝たきりだったが、ご長命で、強い精神力の持ち主だった。本日、品川で7回忌。敬行さんのご遺言を書籍から。「私が死んだら父の道場を公園にしてください。そこに父の名を残してください。自宅の跡地を笑顔で過ごせる公園にし、合気公園の名称で将来合気の聖地として親しまれる場所になってほしい」。道場があったこともそうだが、佐川先生が生活された空間があったところ。実際に先生の周りには特別な空気があった。土地にエネルギーが残っていると感じる。貴重な石材も配置されている。

**（S氏から）**

私も木村先生の道場に伺って合気を感じてきた。言葉では伝えきれないが、佐川先生のことが伝わってきた。

**（O氏から）**

佐川邸の真南に接する家に住んでいる。日本画家をしており、35年前、落ち着ける場所を探していた。道を歩いていると佐川先生の道場をご存じですかと聞かれ、有名な方と認識した。西側に住んでらっしゃる方が、ご両親の代から住んでらっしゃる。以前は、木や鳥や自然が残っている一角だった。どんどん切り倒されたが、うちの前だけは絶対に切らないでくださいと死守してそこだけ残してもらった。シジュウカラ、オナガ、ヒヨドリ、メジロなどたくさん鳥が集まる。佐川先生が風水に基づいて一本一本増やしていき、大変大事にされていた木とのこと。石組みもそう。この土地全体がそういったことを考え、木を大切にされていたと思う。切り倒されたことはとても残念。これからだと、モミジがたくさんあり、赤とんぼが飛び、周りの方々も癒される空間がここに存在していたと思う。少しでも空気が取り戻せたらと思い、この集まりに参加している。

### **前提条件等（立地条件、現況課題等）説明**

・パワーポイント資料の説明

・景石をどうしていくかといったことが考えられる

### **計画案説明**

### **アンケート結果報告**

### **現地視察の前に**

#### O氏から、今回参加できなかった方からのご意見について

* + 先日ご意見を伺ってきた。100%とも言わないまでも、市議の方の働きかけで動いてもらい、市民が中心になって公園をつくることは新しい試みだそうで、すべてが叶うとは言わないが、できるだけ市民の意見でつくれるような公園にしたいと思うので、いろいろ伺った。そこで挙げられた問題点がいくつかある。
	+ 細い通路の国分寺側に接している方々から、ブロック塀は旧佐川邸の所有だそうだが、防災を考えて、撤去してもらいたいとのこと。
	+ 以前その境目は小川だった。小川の壁面をコンクリートで段差がつけてある。ブロックを下まで取ると、土が崩れてしまう。ブロックの下1～2段を残して、その上にフェンスをつけるなど工夫をしてもらいたい。
	+ Yさんのところにへこんだところがあり、前は鉄製の木戸のような裏門があったが、そちらが工事中の手すりのような柵になっているので、忘れずなんとかしてもらいたい。
	+ 西端の三角の部分は佐川邸の門が残っている。これをどうするかという質問がある。市に三角の部分をゆずってほしいと言ったが無理だと言われたそうである。しゃがむと隠れられるスペースになっており、以前、そこを乗り越え、風呂場を除いた人がいるようだ。西側の門に鍵をつけてほしいということにもなるが、その管理をどうするか。持ち回りで交代などか。向かい側に2棟マンションかアパートがあり、以前は管理の方がいたが今はいない。土日は休みでいらっしゃらない。つい先月防犯ベルがなり、ずっと聞こえていた。消防車やパトカーがきて、住人の方がボタンを押し間違えたことがあった。夜間にかなり長いこと鳴っていた。若い人たちなので、こちらから入って公園にたむろすることもありうるのではと。防犯を考え、念頭にいれてもらいたいという意見もあった。
	+ そのマンションかアパートは学生寮で女性だけだったが、埋まらないのでまた男女になった。いまは勤めてらっしゃる方もいる。
	+ 2～3日前に市役所の方が来て、草を刈ってくださった。通路はとりあえず刈った状況。

#### S氏から

* + 通路ではなく、大きな長方形部分の西側の方からメール頂いており、勝手に公園から自分たちの敷地に来られると困るので、しっかり柵をということだった。目隠しでなくとも、ネットフェンスでもよいが、ちゃんと立ててほしいと。

## **現地確認**

## **会場にてグループワーキング**

* + ３グループに分かれて、非常に熱心なやりとりが見られました

## **各グループの発表**

#### Ａグループ（I氏発表）：

* + 59の意見が出た。西側通路部分は死角になりやすいので、ゴミの不法投棄になったりするのでは。両側に民家が接しているので、フェンスの内側に目隠し用生垣をやったらよいのではなど考えてほしい。樹木の多い公園、空気がきれいになったり、昆虫や鳥が来る。藤棚があるとよい。樹木の剪定をしっかりしてほしい。防犯ビデオがあって死角のない公園にしたい。ゆったりできる公園。夜は若い人が来るかもが心配。昼間はお年寄りがひなたぼっこしたりできるシンプルな公園が良い。日本庭園残してほしい、池があって魚がいるような。しっかり整備してあればきちんとした使い方をしてくれるだろう。
	+ テーマは、防災・防犯をふまえた上で、自然を生かした、ゆったりとした公園。

#### Ｂグループ（M氏発表）

* + 日本庭園はいまあるようなものを残してほしい。北側はなにもなくてよいので災害時に集まれるただの空き地でよいのでは。通路は近所に住んでいる人にとっては防犯が心配。夜間は施錠できるようなものがよいという意見と、通り抜けできたほうがよいという意見も。顕彰碑、井戸、水のある場、木を残してほしい。フェンスがあって、出入りしやすく。自転車がスピードを出して通り抜けないように。なるべく売らないで広い空間を残してほしい。合気というものが分かるような公園にしてほしい。

#### Ｃグループ（H氏発表）

* + 自然に関係すること。どんぐり、桜がほしい。季節を感じたい、鳥が来てほしいという意見が多かった。木陰、紅葉。遊具に関してはほしいという意見はなかった。広場は軽い運動ができたらよい。大東流合気武術の体験会が開けたら。夏でも休めるような日陰（パーゴラがそうなるのかもしれないが）がほしい。死角になるところは街灯がほしい。乗り越えられないフェンス。通り抜けもしたいが防犯を同時に確保したもの。表札を残してほしい。日本庭園の周り、井戸は絶対に欲しい。池に水を入れる入れないを決めないといけない。蚊が大量にいるので、蚊の対策をどうしたらよいかを専門家に聞きたい。災害時にかまどベンチがほしい。消火栓がこのへんにないのであった方がよい。災害時に使えるようなマンホールトイレ。まとめると、自然と触れ合える、防犯、運動。

## **本日のまとめ**

* + 各グループとも自然に関する意識が高いようで、最近は生物多様性の話などを耳にする機会が多いからかだと思うが、自然の中での生き物との関わりの大事さを感じているのではないか。また、できるだけ何もないシンプルな空間、遊具など施設は無くても子供たちが自由に使える広場があれば良いという意見もあったが、公園を日々使う上で、どのような場所にしたいか、多様な世代が集まれて、お年寄りもゆっくり休憩できるとか、合気道など体を動かす、健康の視点で来られるようなところなど色々と考えられると思う。また、公園まで歩いてくることも体を動かすことにもなる。まずは、このような大きな視点を持って考えて行って欲しい。
	+ 具体的な話に目が行きがちであるが技術的な色々なやり方はある。次回以降、どんな施設であればそれがどう対応できるかについても検討できればと思う。最終的に設計に入ったときに技術的にどうなるか。近隣の人との調整や整備費用等も踏まえ、どういうことができるかが決まってくる。
	+ 西側の通路をどうするかについて、賛否両論あり、鍵をしめてしまうという意見もある。時間で閉鎖管理をしている公園もある。どうしていくか、市の方々と相談しながら整備を進めることになる。利便性をとるか、隣接されている方々のご意見（全員が参加しているわけではないが）、それをふまえて方向性を決めていくことも大事。
	+ 池のことはアンケートでも、蚊や水質の管理、子どもの安全性など意見が出ていた。公園を管理する側にとっても気にするところなので、そういったところの配慮も必要。一方でビオトープという考え方もあり、生き物に触れられる場にしたいとの要望もあった。どちらの方向性で行くかは、これから技術的にも詰めていく必要がある。例えば、植栽の状況によっては蚊が隠れ住みやすい条件もあると思うので、低木を少なくして蚊が隠れ住まないようにする、虫が湧いたときに食べてくれるような生き物が住む環境づくりという考え方もある。
	+ 今回は意見が出なかったが、子どものボール遊びも考える必要がある。公園ができたときに、どうやって公園の使い方をしていくか。ベースには小平市の公園のルールがあると思うので、それを踏まえて考えていく必要がある。小さい子がボールで遊べないということが多いのが、どこの自治体も問題になっている。私たちも他の行政で、できるだけ小さい子供たちがボールで遊べる公園をつくりだしてほしいということを受け、ルール作りも含めて行っている。小平市は500㎡以上の公園はボール遊びで使えるようにしている。最初からダメではなく、いろいろな人たちの思いもどう受け止めていくかを考える。公園の中の配置やまわりにどういう施設を設けるかなども含めて、技術的な配慮をすればいろいろとできることもある。そういったことも、2回3回で考えていければ。

## **その他（敬称略）**

* + 石灯籠の、耐震というか、倒壊の危険については、一般的にどうか。（K）
	+ 通常、石灯籠は、乗っかっているだけのものが多い。崩れないよう補強するなど必要。公園として置いているケースは非常に少ない。人が近づいて危ない場所には置かない、人が近づきにくいような工夫をする。万が一のことまでを想定しておく必要がある。中に心棒を通すなどは、石灯籠の状況に応じて対応を考える必要がある。（S）
	+ 観光地の古寺などにある石灯籠の周りは観光客がまわりを歩いている。耐震化など技術的に対策しているか。（K）
	+ 石灯籠に手を加えるかは、そのものによって、手を付けられないような貴重なものである可能性もある。そこは事前に調査などをした上で判断をしていると思う。（S）
	+ 灯篭は上の傘がひろいものではないので、子どもがよじ登ってくずすにはかなりの力がいると思う。池の中、少しでも水が流れているところに置いた方が、人が上りにくいのでは。（O）
	+ 以前、植木の管理をしていたときに、植木屋から聞いた話は、京都の方で入手して、いまは手に入らない貴重な灯篭だときいている。買うにしても1千万円はすると聞いている。歴史的な価値があり、手を加えるのはどうか。技術的に、簡単に崩れないような技法が使われているのでは。（S）
	+ 木村先生の本で、かんざんじとか、有名なところから持ってきた灯篭というのが書かれている。灯篭の周りに人が寄れないような柵をする手もあるのかと思う。重機で動かすのは大変。子どもが上って崩れるようなことはないと思うが、地震で崩れることに。（K）
	+ 残すという理由付けをしっかりして、移動させる費用の事も踏まえて今の状況で残すなら、今の位置で公園計画をどうするのかどのように安全面も確保するかを検討していく。（S）
	+ 由緒を書いたプレートなどを書いておいておけば、よじのぼることはないのでは。（O）
	+ 子供がよじ登るというが、崖があって、柵があって、危ないと書いてあったら、それを乗り越えていくのはおかしい。公園で、ここはあぶないという表示をしておく。それを無視していくようなことを心配していてはきりがない。（W）
	+ 何かあったとき、命の危険まであるというところを、可能な限り排除するというのは、公園にかかわっている人間からすると、必要である。（S）
	+ ほりばた公園、砂川用水の小さな公園に、防災倉庫を市の方で建ててもらった。隣接の方が、夜に子供たちが集まって火遊びをしたり、電柱に上ったり、若い人がたむろしたり、若い男女がデートしたり。木が公園の上まで来ていて、死角になっているから。防犯上、放火が怖くて、せっかく買っていい土地だと思っていたが、引っ越してしまおうか考えているという方もいる。ただ、発想を変えると、袋小路のような何もない公園に、集まって話したりする方々を抑圧して、追っ払ってしまったら、若い人たちや子供たちはどこへいけばいいのか。そういう抑圧された子供たちを吸収する場所がどこにもない。子供たちが遊ぶ、ゴミをちらすとやっているが、昼間は高齢者でよいが、夜は若い人たちが集まりたい雰囲気がある。うるさいからと追っ払ったら、ますます若い人たちが抑圧される。どうしたものかと。（W）
	+ 多様な人たちが利用できる空間をつくって、それぞれが利用することを許容できるようにしていく、ここは自分たちのものだという意識を持たないで、みんなのものと思って使う。これまで行政が与えてきたが、自分たちで使える場所として公園を使いつくすような形でみんなで関わり、みんなの場所ということをそれぞれが認識していくことかと。（S）
	+ これからどうまとめていくかは大変だが、専門的な部分で必要なところは私がフォローする形になると思うが、一番大事なのは、日々これから使うことになる公園をどのようにするか、どのように使っていくか（市のアダプト制度の利用など維持管理に関わっていくかも含めて）はみなさんが考えるところです。（S）
	+ 市役所の方々が草刈りをしてくれたが、枝の伐採、池の水で蚊の対策をどうするか、雑草などの処理は、以前は市の方でやりますと言っていたが、それは継続されているか。アダプト制度を使ってもやってもらえるか。（O）
	+ 高木の剪定は地域の方々に手伝っていただくのはなかなか難しいので市の方で対応していくが、ご要望をうけてすぐ対応できるかというと、公園の数が多いので順番に対応する。今後どういう形の公園整備にするかは未定だが、たとえば日本庭園という形で整備されることになった場合、市として日本庭園の公園はいままでない。ある程度地域の方に、草刈りなどを手伝っていただけないと、管理的に難しくなってくると考えている。できれば今後地域の方も含めて、アダプト制度についてご相談させていただき、日常的な簡易的なところについては地域の方の力を借りられればと考えている。高木については、年に1回は入れてなく、2年や3年に一回、剪定している。アダプト制度の入っていない公園は、下草については年に1回程度の剪定。あまりにもひどいときにお願いするということについては、シルバーに業務委託してやっていただいている公園はあるが、可能な限り地域の方に参加していただいてということであれば、地元の方とご相談させていただければ。（佐藤課長）
	+ つまり、アダプト制度を普段からしていただいていれば、何かあったときには市が柔軟に対応していただけるということかと。（安竹）
	+ 以前、防災倉庫の上にのって少し切ったが、それより上になるとさすがに危ないので市にお願いして、なるべく根元の方から切ってもらう話をした。十数万は軽くかかると思う。公園課に聞いたら、公園が多くあるので、やらないわけではないが、のびのびになる可能性はあるということ。（W）
	+ 今日話した意見も踏まえて、また考えることが多々あるかと思う。次回までに整理していければ。（S）

## **次回について**

令和3年10月23日（土）13時～16時（12:30開場）

* + 次回の予定はスケジュール案をご参照ください
	+ ぜひお住まいの周辺の公園に足を運んでみてください
	+ こんな公園が良いなどのエピソードや、写真を送っていただくなど

## **ふるさと納税の活用について**

今回、土地をまったく売らないという前提で考えていただいているが、もともと市の計画としては、公園をつくるお金がないので、一部売る計画だった。売らないで済むようにするにはお金を集める必要があり、市はふるさと納税の活用を検討してくれている。寄附が集まれば売らずに済むが、足りなければ、一部を売ることになる。ぜんぜん集まらなければ、3分の１を売ることになる。小平市の方も寄附いただけるので、決まったら協力をお願いしたい。

## **事務連絡**

* + 事前にグループ分けをするので、今日いらっしゃった方で、2回目は来られないという方はお知らせを
	+ 今日配布した資料は2回目以降も使うため、カラーコピーは費用もかかるため、2回目もお持ちください
	+ ご意見やご質問はいつでもS氏まで